

平成 22 年 8 月 25 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 22 年 8 月 25 日 (水曜日)

午後 2 時 30 分から午後 4 時 20 分まで

2 場 所 栃尾支所 研修室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 内藤 博子 委 員 羽賀 友信

委 員 中村 美和 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 野口 正巳 教育総務課長 若月 和浩

学務課長 武樋 正隆 学校教育課長 小野田 信子

子ども家庭課長 矢沢 康子 保育課長 佐野 勉

中央公民館長 葦澤 豊 中央図書館長 小倉 進

科学博物館 山屋 茂人 教育センター所長 山岸 文夫

教育総務課特命主幹 安部 和則 学校教育課主幹兼管理指導主事 島倉 昭弘

学校教育課主幹兼管理指導主事 関谷 祐二 学校教育課主幹兼管理指導主事 山田 修

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 長谷川 雅泰 教育総務課庶務係長 新沢 達史

教育総務課庶務係 小川 瑞穂

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 63 号	条例改正の申出について (長岡市立学校使用条例の一部改正)
3	第 64 号	長岡市産前産後家庭生活応援事業実施要綱の一部改正について
4	第 65 号	平成 21 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び 評価報告書について
5	第 66 号	附属機関委員の委嘱について
6	第 67 号	補正予算の要求について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 8 月定例会を開会する。

(大橋委員長) 日程に入る前に、一言発言する。先月、川崎小学校の教諭が酒気帯び運転により懲戒免職処分となった。このようなことは、二度とあってはならないことである。ついては、加藤教育長を中心に、再発防止を徹底することを強く望む。よろしく願います。

(加藤教育長) 川崎小学校の教諭の不祥事について、新潟県教育委員会の処分内容を厳しく重く受け止めている。子どもたち、保護者、市民の信頼を失う結果となった。これからこういった不祥事が二度と発生しないよう、管内の教職員の服務監督にあたり、信頼回復に努めていく。この度は大変申し訳なかった。

(大橋委員長) 私たちも重く受け止めている。よろしく願います。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、内藤委員及び加藤委員を指名する。

日程第2 議案第63号 条例改正の申出について 長岡市立学校使用条例の一部改正について

(大橋委員長) 日程第2 議案第63号 条例改正の申出について 長岡市立学校使用条例の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(安部教育総務課特命主幹) 議案第63号 長岡市立学校使用条例の一部改正について説明する。今年3月から工事に着手していた江陽中学校の武道場の新築工事が10月29日をもって完成し、長岡市学校使用条例に基づき、一般開放を行う場合の施設使用料を同条例第4条別表の3、武道場使用料に追加するものである。使用料の額については、電気料、水道料、目的外使用料の積み上げにより算定したものである。この条例は9月市議会に諮ったのち、11月1日から施行したいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議はないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

日程第3 議案第64号 長岡市産前産後家庭生活応援事業実施要綱の一部改正について

(大橋委員長) 日程第3 議案第64号 長岡市産前産後家庭生活応援事業実施要綱の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 産前産後家庭生活応援事業については、平成20年度から実施している事業で、母子健康手帳の交付を受けてから、産後2か月の間の家事・育児について、民間事業者からサービスを受けたときに、その料金の一部を助成しているものである。1回500円で、1回の妊娠につき5回まで助成している。事業者については、市内に事業所を有する法人または団体で、事前に登録をいただいていた。現在は助産師会とシルバー人材センターの2団体から登録をいただき実施し

ている。ただし、合併をし、地域が広がる中で全体を網羅するために「市内に事業所を有する」ということがネックになっていた。このため今回要綱を一部改正し、「市内に事業所を有しない場合は、委員会が特に認めたものに限る」という一行を加えるものである。これにより、越路、小国、川口地域の妊婦が広く助成が受けることができる環境を整えるものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

日程第4 議案第65号 平成21年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について

(大橋委員長) 日程第4 議案第65号 平成21年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について を議題とする。事務局の説明を求める。

(野口教育部長) 平成21年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について説明する。平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。この法律に基づき、長岡市では2年前から実施しているものである。今年度が3回目の報告となる。点検・評価について、同法第27条第2項で「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」と定められている。このことから、学校教育、社会教育、子育て支援の各分野の学識経験者4名で構成する事務評価委員会を設置し、進めてきた。今年度は5月27日、6月28日及び8月5日の3回に渡り事務評価委員会を開催し、教育委員会の権限に属する事務を担当する各課の取組み状況や成果等について検討を行い、報告書にまとめた。報告書の1ページから10ページまでは、教育委員会会議の開催状況及び審議状況につい

て、また、10 ページから 31 ページまでは、長岡市総合計画に定める基本施策のうち、教育委員会が所管するものについて、21 年度の実績とその成果及び今後の取組み等、点検・評価の結果を記載している。事務評価委員会からは、報告書の 3 枚目の 4 行目に記載のとおり、「それぞれの施策で掲げている目標を概ね達成している」との評価をいただいている。なお、個別の事業に対する要望等については、それぞれの項目に記載されている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 事務評価委員会については、私どもも一度ヒアリングに出席した。具体的な、厳しい意見を頂戴した。できるだけ開かれた教育委員会であってほしい。各支所を始め、いろいろなところへ出て会議を開くほうがよいという話をいただき、重く受け止めている。教育委員会における事務の点検・評価について、「生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現」、「人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現」という大きな柱にそっての評価であるが、これは総合計画に基づく教育委員会が所管するものの評価ということでよいのか。また、今後の評価について、2 本の柱にそって行うものなのか。

(若月教育総務課長) 長岡市は総合計画を持っており、その中で市全体を見据えて計画がなされており、それを中心に評価している。この総合計画は、平成 18 年度から始まり 10 年間の計画となっている。今年度で 5 年目を迎え、これで前期が終了し、平成 23 年度から後期計画に入る。この中の基本施策についての 2 本の柱の変更はない。平成 22 年度の事業は来年度評価するため、来年度の評価項目については、ほぼ変更がないと思う。平成 23 年度以降については、後期計画を見直している最中であり、基本施策の変更はないが、評価項目の変更はあるかもしれない。

(大橋委員長) ほかに質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

日程第 5 議案第 66 号 附属機関委員の委嘱について

(大橋委員長) 日程第 5 議案第 66 号 附属機関委員の委嘱について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 長岡市教育委員会の附属機関として、公立学校通学区域審議会をもっている。委員は、中学校区で委嘱しているが、この 3 月 30 日に川口地域が合併し、川口中学校区から委員を追加したいものである。委嘱期間は平成 22 年 9 月 1 日から平成 23 年 9 月 30 日までで、委嘱したい方は記載のとおりである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議はないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

日程第 6 議案第 67 号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第 6 議案第 67 号 補正予算の要求について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 来る 9 月 9 日から長岡市議会の 9 月議会が開催される。教育委員会として補正予算の要求を市長へ提出したいものである。提出後、市長の査定があり、議会へ提案されるため、実際に議会へ提出されるものとは金額は異なるかもしれないが、現時点で教育委員会として要求したい金額を教育総務課から順に説明する。

(安部教育総務課特命主幹) 教育総務課の歳入、歳出 200 万円について説明する。これは、国から委託を受け、地震に対し今後さらに安心・安全な教育環境を整備するために学校施設の天井材、内装材、照明器具、窓ガラス、書棚等の非構造部材の点検・調査を行い、その実態を十分把握したうえで、非構造部材の有効な補強方法やより実効性の高い、日常点検における管理方法について検討を行い、国に提案す

するために必要な調査手数料を歳出に、国からの委託費を歳入に計上するものである。この事業について国は大規模地震が発生した場合に、崩壊、損壊の恐れが高い学校の主要構造部、柱、梁の耐震化にほぼ目途がついたことから、これまでの地震被害の教訓を踏まえ、今後の更なる学校施設の安全の向上のため、非構造部材に対しても耐震化を行うことを積極的に推進し、必要な自治体における補助制度を確立するための検討を行う方向にシフトしたものである。

(小野田学校教育課長) 歳出、歳入同額である。歳出について、事業が2つある。まず、新潟っ子スキー体験拡大パイロット事業費である。これは、新潟県の事業を受託して行うもので、スキー発祥の地である新潟の子どもにスキー体験をさせて冬期間の健康・体力の増進を図るものである。信条小、日吉小、和島小、寺泊小が事業を受託して行う。もう1つが、学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究事業費である。これは学校図書館を活性化し、子どもたちの学習活動に役立てるため、昨年度から国の事業を県が受託し、それを長岡市が再受託をするものである。昨年も委託を受けたが、今年も学校図書館の活性化を図るため受託する。千手小、栖吉小、宮内小、希望が丘小、豊田小の5校を協力校に指定し行う。その他協力校以外の学校にも司書を派遣し、学校図書館の活性化を図りたい。歳入はいずれも県からの委託費である。

(矢沢子ども家庭課長) 各種事業について、県や国から補助金をもらって事業を実施している。昨年度、見込みで補助金を受け取っていたが、その事業の実施が終了し、あまった補助金を返金するものである。

(佐野保育課長) まず歳出について説明する。平成21年度特別保育事業について、事業が確定し国、県に返還を行うものである。続いて、保育所建設事業、土地購入費である。前回の定例会においても説明したが、白山保育園の移転改築に伴う土地購入費が確定したことに伴う補正額で、3,600㎡を購入するものである。7月に地権者と仮契約を行い、その金額である。続いて、幼稚園就園奨励費補助金である。支給対象者の数が経済情勢の影響により、見込みより上回ったため、補正を行う。次に、歳入である。幼稚園就園奨励費補助金の私立幼稚園分については、国の補助金の歳入である。雑入については、歳出の説明と同様で保育所運営費確定に伴う国、県からの歳入である。3番目は白山保育園の移転改築分の市債分である。

(小倉中央図書館長) 中央図書館が24年経過し、劣化により補修工事が必要になっている。3点緊急を要するもので、1つが空調設備の冷却塔という水を入れておくタンクがひび割れており、現在水が漏れている状況であり、早急に修繕が必要であるものである。また、敷地内の水道管が3回にわたり破裂し、その際に緊急に修繕を行ったが、水道管そのものが腐食しており取替が必要になっている。また1階の給湯器が漏電を示しており、その改修工事が必要なものである。

(山屋科学博物館長) 和島地域で行われている県営郷本川河川改修工事において、計画変更が行われ、川東遺跡の発掘対象範囲の面積が広がったものである。一級河川であり、事業者負担となるため、県から歳入がある。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 非構造部材について、耐震化に対する対応ということでよいのか。

(安部教育総務課特命主幹) 今まで、国が補助金を使って学校施設の耐震補強工事を進めてきた。耐震基準について、柱、梁、基礎等の主要構造部は耐震指標が明確に示されており、それに見合う耐力をつけるための補強工事を行ってきた。中越大震災については、主要構造部より天井、窓の被害が大きく懸案事項になった。現在はこういったものの明確な耐震基準がない。たとえば天井材について、固定しているボルトが長い場合は振り止めをつけるなど、ある程度のものはできているが、まだ未確定である。学校施設に関しては、主要構造の耐震化がほぼ目途がついた中で、非構造部にも目をむけ、今後のマニュアル作成、補助制度の確立、日常点検方法も含め、各自治体に検討させ、それを吸い上げるものである。

(大橋委員長) スキー発祥の地の事業がなぜ、信条小や和島小や寺泊小なのか。

(小野田学校教育課長) スキー発祥の地の新潟県において、スキー授業をしていない地域にもスキーをやってもらい、親しんでもらおうという意図である。

(大橋委員長) 経験させるという意味か。

(小野田学校教育課長) そうである。グラウンドでのスキー授業はあるところもあるが、スキー場に行ってスキー授業は行っていない学校に、スキー場に行ってもらうものである。

(加藤教育長) あまりにもスキー人口が落ち込んで、スキー場の活性化をはかるのもひとつの理由ではないかと考える。

(大橋委員長) 学校図書活性化について、長岡市でも千手小学校、栖吉小学校、宮内小学校は先進地ではないかと考えるが、あえてその学校を選んでいるのか。

(小野田学校教育課長) 国の委託事業で、若干名称を変えながら行っており、毎年委託を受けている。国の受けている事業を進めていくには、経験があるところでないと進めていけない部分もあり、今までも指定を受けている学校を指定し、協力校としている。ただ、やって終わりではなく、協力校でないところにも司書を派遣しノウハウを広める。

(大橋委員長) ぜひ、協力校だけでなく近隣の学校にも広がるようお願いしたい。

(大橋委員長) ほかに質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。まず、食に関する調査の結果について、事務局から説明を求める。

(武樋学務課長) 長岡市では昨年度より学校給食検討会議を実施し、長岡らしい給食の実施について提言をいただくよう現在会議を開催している。その中で、議論をするためにも食に関する調査を実施したいとし、実施の内容について昨年度の2月定例会において説明を行った。この度、調査結果がまとまったため、報告する。調査の対象者は小学校、中学校の児童生徒1,537名に調査を行い、回収は1,507名分、回収率は98.2%であった。同じ児童生徒の保護者については、1,522名のうち、1,279名から回答をいただき、回収率は84.0%であった。調査の時期は今年3月で、中学校の修学旅行の時期と重なったため、2週間にわたり学校の都合のいい時期で調査を行った。調査の対象については、中学校区ごとに抽出した1小学校の5年生の1学級児童とその保護者、また全中学校の2年生1学級の生徒とその保護者である。84%という非常に高い回収率であった。具体的な調査の結果について、説明す

る。今回の調査の主なねらいは、総合的な調査とした。食に関する知識、食事のマナー、学校給食に対する認識、家庭においての手伝いなどの食育など、網羅的に調査をした。「毎日朝食を食べるか」という問いに対し、ほとんど食べないという子が小学生で1%、中学生で2%であった。食べないことがある子が小学生、中学生ともに6%で、ほぼ毎日食べる子がほとんどある。「朝食を食べない理由」という問いには、「時間がないから」、「おなかがすいていない」という内容が比較的多かった。睡眠不足、夜寝る時間が遅いため、朝起きる時間が遅くなるということが一部あるのではないかと考えられる。食生活の実態の調査として「おやつを食べるか」という問いについて、小学生よりも中学生のほうがおやつを食べない子どもが多い。これは中学生になると部活動などで帰る時間が遅くなるためと考えられる。2月の定例会の際にもお話をいただいた「誰と食べるか」という問いについて、朝食、夕食別々のグラフになっているが、夕食のほうが家族そろって食べることが多いことがわかる。また、「夕食を食べるか」という問いに対し、小学生はほぼ毎日食べるが99%、食べないことがあるが1%、中学生はほぼ毎日食べるが98%、食べないことがあるが2%であった。「よく食べる夕食の主食」として、小学生は95%がご飯、中学生は93%がご飯と夕食はほとんどご飯を食べていることがわかった。「食事で気をつけていること」について、ある程度選択肢を設けて回答してもらった。小学生、中学生共通で「食事のあいさつ」について一番多かった。続いて「好き嫌いをなく食べる」が多かった。続いて、学校給食に関する調査で「給食は全部食べるか」について、全部食べるという割合は60%と小学生、中学生ともに変わらないが、いつも残すという割合が小学生は4%だが、中学生は7%と残食がある傾向となっている。給食に関連して、保護者に主食の回数について、76%、79%の方が今のままでよいという中で、ご飯の回数を増やしてほしいという声が約1割あった。最後に、「食事のお手伝い」について、小学生よりも中学生のほうがしない割合が増えている。お手伝いの内容としては、食器の配膳や片づけが多かった。お手伝いの保護者の回答を見ると、「させている」という割合が8割強で、親と子の違いが見える。このほかにも自由意見をいただいている。子どもたちは、学校給食について今のままでよいという声が多い。また、家では食べられないが、給食に出てくると食べるという声もあり、給食の大切さを改めて感じた。保護者の声として、郷土

料理について、作り方がわからないなどなかなか家では出せないのを給食で出してほしい、地場産を使ってほしい、安心して食べられる食材を使ってほしい、レシピがほしい、子どもたちが学校で食べているものを家庭でも出したいという声があった。これをふまえて、学校給食検討会議において、議論していきたいが、3つの検討項目、地場産の利用を多くし、それに向けて供給体制の整備が必要。各学校には栄養士がいるが、独自の献立を立てているが、郷土料理など共通献立を活用していく。食育として家庭との連携は不可欠。この3つが長岡らしい給食につながっていくと考えているところであるが、今年度末には提言を出したいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 有効なアンケートである。保護者から「伝統的な料理」という声もあるようだが、健康課で食育推進会議を行っており、可能であればこれをデータとして渡してほしい。親と子の意見が明確に見えることは有効である。

(大橋委員長) 自由記述では、いろいろな意見が見えたということであるが、統計として、課題に直接結びつけるものが少ないと感じた。データを整理していく中で、自由記述をもっと重要視してほしい。また、朝食を食べないことが子どもよりも親が多いことが気になる。

(武樋学務課長) 朝はコーヒーしか飲まないという親の習慣を変えることは難しいようである。それでも子どもには朝食を食べさせなければという意識がある。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に長岡市子どもの医療費助成事業実施要綱の一部改正について、事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 子どもの医療費助成事業については、市長事務の補助執行しているものであり、議案ではなく報告としている。今回の改正であるが、医療費助成については、2つの制度を実施している。1つが「妊産婦及び乳児の医療費助成事業」ともう1つが「子どもの医療費助成事業」である。2本に分けて実施してきたが、基本である県の取り扱いが変更となり、0歳児である乳児を子どもに含めることとなった。妊産婦を対象に市独自で行っている事業があるため、今後「子どもの医療費助成事業」と「妊産婦医療費助成事業」の2本になる。制度内容については、変更はない。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。平成 22 年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について、事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 長岡市青少年問題協議会という組織があり、中村委員からも参加していただいている協議会である。その中で、本日の青少年健全育成にかかる総合対策を進めており、今年度の実施計画がまとまったため、報告する。中身は青少年にかかる幅広い内容が網羅されている。家庭教育から、健全育成、学校教育、働いている青少年に対する企画の推進、広くは国際交流事業の推進と、青少年という観点で捉えた長岡市として実施している様々な形を取りまとめ、各課がこれに基づき青少年対策に取り組んでいる。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 毎年すばらしい冊子ができている。

(羽賀委員) 組織が単独では見えるが、このように横断的に冊子を出してもらうと、全体としてわかりやすい、長岡らしさが見える。感謝している。

(加藤教育長) 毎年のように、青少年育成センターの街頭活動がでているが、事務の点検及び評価報告書でも指摘を受けているが、よく評価を受け止め、今年度の対応が間に合うようであれば対応してほしい。子どもたちがいる場所が移ってきている。いない時間、場所にいっても仕方がない。対応をお願いする。

(内藤委員) それに関して警察もアピタに行くなどの対応を行っている。駅などにいっても子どもがいない、トイレも荒らされないということである。対応をお願いする。

(矢沢子ども家庭課長) 真摯に受け止めて対応する。

(大橋委員長) 他にないようなので、平成 22 年度長岡市成人式(8月実施分)について、事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 8月14日、15日とお盆に実施する成人式が終了した。これで今年度の長岡市成人式が全地域で終了した。今年度の状況を見ると、夏の成人式においても和島以外は軒並み出席率が上がっている。全体の出席状況として、春夏あわせて78.1%であった。昨年度は73.5%であったので、5ポイント出席率が上がった。山古志地域が100%であったが、今年成人を迎えた人たちが、中越地震

のときに中学校3年であった。山古志地域では、タイムカプセルを新しくなった山古志中学校であけるということで、弾みがついたと思われる。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。次に第50回新潟県小中学校PTA研究大会長岡大会の開催について、事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 第50回になる県下の小中学校PTA研究大会を9月25日土曜日にリリックホールとハイブ長岡を会場に実施する。大会のテーマとしては長岡らしさとして「現在に生かそう米百俵の精神」として、市P連の大会を実施する。現在1,300人ほどの出席者を見込んでおり、分科会、全体日程を進める予定である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。次に子育てフェスティバル2010の開催について、事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 第10回になる子育てフェスティバルを今年も実施する。会場は「てくてく」で実施する。この子育てフェスティバルは教育委員会が主催であるが、実行委員会を組織している。実行委員会は幅広い団体で、29団体が実行委員会を組織している。フェスティバルに向け何度も集まり協議し、作り上げようとしている。当日、多くの方に来てもらうことも大事であるが、作り上げていくまでの過程、意見交換、交流も大切にしている事業である。内容も非常に盛りだくさんである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(内藤委員) 「おいしいコーヒー講座」などあるがすべて無料か。

(矢沢子ども家庭課長) 実は、実行委員会にスターバックスコーヒーが入っている。スターバックスコーヒーに勤務する人が子育ての駅のサポーターになっていただいている。社会貢献活動として日ごろからお母さんたちにコーヒーの入れ方を教えてくれている。そのようなつながりがあり、今回「入れ方講座」という流れになった。

(加藤教育長) 「くじらと一緒に水遊び」とあるが、怪我には十分注意してほしい。

(矢沢子ども家庭課長) 注意して行う。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成 22 年度第 2 回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について、事務局の説明を求める。

(葦澤中央公民館長) 第 2 回社会教育委員会、公民館運営審議会について報告する。開催日時は 8 月 5 日木曜日、午前 10 時から、市立劇場大会議室で実施した。今年度 2 回目の会議で公民館運営審議会の内容を中心に開催した。議題として大きく 3 つあるが、一つ目は、例年 2 年間の任期の中、自主研修を実施しているが、今年度は長岡市で 3 市ブロック研修会が、来年度は中越地区社会教育研究集会が長岡市で開催されることを受けて、今回自主研修を実施するか否かということで審議をいただいた。2 つの研修会のため、今回は自主研修を実施しないということとなった。二つ目は、各種大会の報告について、公民館研究大会、社会同和教育市町村巡回研修会などに参加した委員から報告を受けた。三つ目に、長岡市の公民館事業について、21 年度の事業実績の説明を行い、質疑応答を行った。主な質問として、各地区館で実施されている地域の講座について教えてほしいとあり、いずれも参加料、参加人数などについて説明し、できるだけ丁寧に、参加できるような状況を作り上げたほうがよいと意見をいただいた。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) それぞれの地域で特色を生かした講座が実施されている。越路地域の地学の講座はかなり前から実施していると聞く。そういったそれぞれの地域で公民館独自の講座、非常に人気もあると思うが、ますます盛んにしてほしい。各委員から「こうしてほしい」という要望等もあると思うが、集約を行い指導をお願いしたい。

(大橋委員長) 他にないようなので、平成 22 年度第 1 回長岡市図書館協議会会議報告について、事務局の説明を求める。

(小倉中央図書館長) 7 月 22 日、午後 3 時から 5 時まで第 1 回長岡市図書館協議会を開催した。会議内容としてまず、報告事項として 21 年度実績報告、22 年度事業概要を説明した。その後、8 月 1 日からオープンしているまちなか絵本館について進捗状況を説明し、いくつかの質問があった。次に協議事項として、現在図書館の活動評価について検討しているが、試行錯誤の上 21 年度図書館活動の評価を作

成し、多少の項目修正があったが、承認された。また、22年度の活動評価報告についても承認をいただいた。意見として、現在一次評価を図書館が行い、二次評価を図書館協議会で行っているが、外部評価者を設けることはないのか、またこの評価をどのように活用していくのか意見をいただいた。また、協議会の会議の透明性を高めるために、傍聴を認めるかどうか協議した結果、傍聴を認めることとしたが、実施方法については、委員長、副委員長と詳細をつめたうえで次回から実施することとした。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(内藤委員) 報告事項の中に「自ら読み聞かせ可能か」とあるが、研修を受けずに読み聞かせができるのか。私自身も聞かれたことがある。

(小倉中央図書館長) 本来であれば研修を受けた方が望ましいが、このようなことを聞く方は読み聞かせが上手な方が多い。ぜひ積極的にお願いしたい。

(加藤教育長) 評価のことがあるが、教育委員会の事務の点検・評価報告とは異なるのか。

(小倉中央図書館長) 事務・評価報告よりもさらに細かく、統計的なものも含め評価をしているものである。教育委員会の評価報告は主に事業について評価している。今回報告書を資料として添付すべきであった。

(加藤教育長) 評価の仕方について、外部評価者として、事務評価委員会を活用していくほうがよいと思う。検討してほしい。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成22年度第1回長岡市栃尾美術館協議会会議報告について、事務局の説明を求める。

(小倉中央図書館長) 6月14日に栃尾美術館協議会を実施した。議題として平成21年度事業報告、平成22年度事業計画及び運営方針を説明し、次に協議を行っている。22年度の事業計画の中で21年度の「謙信展」、今年度の「てまりの美展」で、地域の皆さんを巻き込んだ形で事業ができたことは意義が深いと意見をいただいた。協議の中の意見は県内、近県で同規模の美術館でそれぞれ所蔵している美術品の貸し借りで展覧会ができないか、市役所や学校などの公共施設にある有名な作家の美術品を集めて展覧会ができないか、美術館の目指す方向が見えていないところもあるため、方向性を探るためにアンケートで来場者の意見を聞いたかどうかと

の意見が出ている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 本日、美術館を訪問した際にもいろいろな話が委員から出ている。協議会委員の意見は、どういった展覧会をしたらよいか、どういった運営がよいのかという部分が前面に出ている。ただし、お客様をより多く招くという観点からの話は難しい点もあると思う。後ほど、教育委員からの意見としてあげさせてもらう。

(中村委員) 「てまりの美」などで地域のみなさんを巻き込んだ形で事業ができたところがあるが、どのような形で、どういったことをしたのか。

(小倉中央図書館長) 「てまりの美」については、てまりは栃尾の名産品であり、ボランティア組織、作っている人たちが積極的に関わってくれ、非常に盛り上がった。そのため、意義が深かったという意見につながったと思う。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に栃尾美術館「美術館に行こう ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」の開催について、事務局の説明を求める。

(小倉中央図書館長) 9月18日から11月28日まで、「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」を開催する。内容はディック・ブルーナの作品の展示やそれにあわせた所蔵品の展示を行う。ミッピーは非常に親しまれているキャラクターで、大勢の方から来場いただけると考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に協議報告はないか。

(大橋委員長) これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に科学博物館、栃尾白山保育園、栃尾美術館を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(中村委員) 科学博物館は、私自身は初めて訪問した。子どもは夏休みなどよく行っていた。博物館の中は狭いが、展示をわかりやすくしていた。今日発見したことは、水鳥の話で、冬期間信濃川に来ている鳥はマガモが多いことを知った。昆虫が多く収蔵されており、植物の展示もわかりやすく、子どもも大人も楽しめる内容であった。

もっと足を運ぼうと思った。栃尾白山保育園は、住宅地の中にありわかりにくい場所でスクールバスもなく、保護者が送り迎えをしている園であった。2、3歳児の教室で給食を一緒に食べたが、給食もとてもおいしかった。調理員は、除去食勉強中とのことであった。子どもたちは元気よく、人数もちょうどいい感じで、職員が熱心で、チームワークがよいという印象であった。栃尾美術館については、いろいろな意見がでていた。現在行われている大山コレクションはすばらしいものであった。個人一代であれだけのコレクションを集めることはすごいと思う。もっとたくさんの方に見ていただきたいし、そうするにはどのように集客したらよいか意見を出した。次のディック・ブルーナのミッフィーは小さい子どもも好きなキャラクターで、親も好きな人が多い。グッズ販売の計画がないのはもったいない。もう少し活性化が必要と感じた。

（内藤委員） 科学博物館は近いこともあり、ときどき足を運んでいた。私は虫が大好きだが、あれだけのカブトムシの数、世界の半分はあるとのことですごいと思った。学芸員の説明があると、わからないなりにもずっと説明を聞いていたいという気分になる。あきない場所と感じた。一般市民として行っても学芸員がいれば説明してくれるとのことなので、市民の方にお知らせしていきたい。栃尾白山保育園は、先生方が密に連絡を取っていた。私は4、5歳児と一緒に給食を食べたが、とってもしっかりしている子どもが多く、日常から親子の会話が成り立っていることを感じた。また三世代ということもあるのか箸の使い方がとても上手で、下の子の面倒もよく見ている。先生たちの対応がとてもよく、「大人の保育園」に来たという感じであった。栃尾美術館は、すごい展示をしているのに集客できないということで、期間中だけでも美術館にバスを出してもらい、美術館だけでなく、グッズが買える、地場産のものがある、そういっためぐることができたらいいと考えた。私の子どもが小さい頃は、美術館に行った後、栃尾のあげを食べさせて帰るということを何度もしてきた。そのような試みもしてほしい。

（羽賀委員） 科学博物館では、学芸員から話を聞いて、知識がなければ見えない世界のおもしろさがあると改めて感じた。旭山動物園もそういう部分で、新たな視点、量的な部分ではなく質的な部分で成功していると思う。お得感のあるプロジェクトを検討していただけたらありがたい。栃尾白山保育園について、武樋学務課長からさきほど報告のあったアンケートに関係して子どもが朝食を食べないという相談があっ

たそうだが、実は親が食べていないということであった。親が食べる姿勢を見せることが学びになるということを実感した。栃尾美術館は「驚いた」の一言である。ロケーションがよい、建物がよい、内容がよい、人がいない。極論であるが、道の駅と兼ねてもいいのではないかと思う。「食」と「芸術」、ミスマッチの可能性はあると思う。コレクションについては感動した。

（加藤教育長） 科学博物館は、初めて学芸員と一同に会して会話をした。一人一人の質は高く、もっと活用しなければと思う。30万人都市で、14人の学芸員は他にはない。今までは内にこもって研究が多かったかも知れないが、外に出て指導をしているとのことで、ぜひ継続してほしい。栃尾白山保育園は、職員にベテランがそろっている。それもうまく出ている。とても落ち着いている。若い先生も活気があっていいが、年配の先生が教えるべきことをしっかり教えてくれている。親も安心すると思う。敷地がせまいのがかわいそうかと思った。栃尾美術館は、皆さんからお話いただいたが、なんとかしなくてはと考えている。厳しいことを言うと、「てまり」や「謙信」など栃尾の特色に協力するのは当たり前である。自分たちが昔からやっていることには協力するが、そのほかのものには協力をしないということがもしあるとすると、支所全体でもっと取り組んでいくべきかと思う。もう少し商売っ気を出してもいいのではと思う。いろいろとやってみて、よそからいい作品がきても人が来ないということがないようにしていきたいし、ぜひお願いしたい。

（大橋委員長） 科学博物館は、毎年館報や学芸員の方の専門書ももらっている。改めて内容を確認したら、平成17年度から熱中！感動！夢づくり教育の記録が載っていた。これを見ながら、お世話になっていることを再認識した。何回か博物館には行っているが、学芸員の説明を聞くと感動する。今後も大勢の方に足を運んでほしい。そのためにはどのようにしたらよいか、また考えて行きたい。栃尾美術館は、行くといい。以前にお世話になったので、何度も行っている。道の駅は、イベントガイドなどでさまざまなイベントあり、物産館もあり、食べるものもあり、行って喜んで帰ってくる。美術館は、行く感動するが、行くまでがなかなか容易でないと感じる。以前運営委員をやったこともあるが、会の持ち方にばかり力が入ってしまう。その中で「ふるさと美術館」と位置づけ子どもの作品展を行い、それを親が見に来るということを計画し、これはヒットした。それがまだ継続しており、また長岡全地域に広がっ

ていることはうれしく思う。そのほかの企画展について、来館すれば感動すると思うので、皆さんからいい知恵を出していただき、集客につながってほしい。栃尾白山保育園について、ベテランの先生が落ち着いてすばらしかった。里帰り出産のため、随時入園を受入れるということは、とてもすばらしいし、全市的に行っているということを知った。里帰り出産のための受入がいいということは、保育士のチームワークがよいためでもあると感じた。

(羽賀委員) 新聞をご覧になっている方もいるかもしれないが、先週木曜日に、ブータンの写真が出ていた。その中で長岡市の教員2人の名前を出させてもらった。ブータンは半鎖国国家であるが、5年前からプロジェクトで関っており、今回日本から始めてブータンに教員を入れた。その中で教育大臣と話をした。新潟、群馬、千葉から13人、そのうち3人が長岡の教員である。プロジェクトがきっかけで世界に目が向き、ロンドンで教員をしていたとのことである。長岡から行った教員が教育大臣と話をしてきた。そこでは伝統教育と国際教育の2本足で考えていて、非常に長岡と教育が似ており、関係をつなげていきたいと考えている。関連して、11月10日に世界銀行副総裁もされた西水美恵子さんをお呼びして講演会を行うこととなった。「混迷の時代のリーダー像」ということと「ブータンのGNH」の2本柱でお話をさせていただく。翌日、私たちがやっている未来市民講座の話をしたところ、お願いしてでも講演をしたいと言ってもらい、講演料も無料で行っていただけることとなった。平日11月11日の午前、大学を中心に行うかもしれないが、ぜひご協力いただきたい。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員